

## 平成22年度 第38回岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会 (兼第41回全国高等学校選抜優勝大会県予選会)

### ☆男子展望

今大会は、県総体において優勝した美濃加茂が優勝候補の筆頭である。全国高校総体では惜しくも2回戦で涙をのんだが、実績・経験とも申し分がない。主将の小菌井、シューターの中村、長身センターの国本・汜天騏のツインタワーを軸に破壊力のあるバスケットを展開する。対抗には、県総体2位の富田があげられる。運動能力の高い主将の真里谷明夫を中心にチームワークは抜群で、コート縦横無尽に駆け回るバスケットを展開する。また、県総体3位の岐阜総合、4位の中津川工も、上背はないが、スピーディーで粘り強いチームであり、上位を脅かす存在である。さらに、県総体ベスト8の岐阜農林・岐南工も着実に力をつけており、どの試合も熱戦が繰り広げられることが予想される。

Aブロック・第1シードの美濃加茂が最有力である。対抗には、能力の高い選手を擁する土岐商、県総体ベスト8の斐太があげられる。

Bブロック・第4シードの中津川工が粘り強いバスケットで上位を狙う。対抗には、県総体ブロック決勝で中津川工に延長の末惜敗した岐阜農林が、リベンジに燃えている。この2校がベスト4を懸けて戦うであろう。

Cブロック・第3シードの岐阜総合が有力である。機動力を生かしたバスケットに、どれだけ磨きがかかったか期待したい。対抗には、機動力があり粘り強く戦う岐南工があげられる。順当に行けばこの2校の勝者がベスト4を懸けて戦うであろう。

Dブロック・第2シードの富田が虎視眈々と優勝をねらっている。対抗には、速攻を得意とする高山西、県新人・県総体ベスト8の加納があげられる。

### ☆女子展望

岐阜女子が選手層の厚さ・個々の能力の高さで群を抜いている。東海高校総体では優勝、全国高校総体ではベスト8という成績を収め、実績・経験とも申し分がない。主将の東方、センターの杉浦を軸に、レベルの高いバスケットを展開し優勝候補の筆頭である。対抗には、チーム力が高く粘り強い県岐阜商、下級生主体ながら着実に力をつけている長良、中国人留学生を擁し、総合力も高い高山西があげられるが、岐阜女子相手にどこまで食らいついていけるか期待したい。

Aブロック・第1シードの岐阜女子が圧倒的な強さでベスト4に進出するであろう。対抗には、県総体においてベスト4にあと一歩というところで惜敗した土岐商があげられる。

Bブロック・第4シードの高山西が有力である。対抗には、近年着実に力をつけている岐阜農林、県総体ベスト8の中津商があげられる。

Cブロック・第3シードの長良が安定した戦いで上位に進出するであろう。対抗には、外角シュートを得意とする岐阜総合があげられる。この2校の岐阜地区対決は注目される。

Dブロック・第2シードの県岐阜商が最有力である。対抗には、県総体ベスト8の可児、西濃地区1位の大垣商があげられる。この勝者がベスト4を懸けて県岐阜商に挑むであろう。